

目次／比爪館跡出土遺物 表紙、いわて文化ノート「明治期の博覧会と物産会」p.2-3／展覧会案内「比爪 もう一つの平泉」p.4-5／活動レポート「釜石市片岸貝塚・野田村平清水Ⅲ遺跡」p.6／事業報告「関西での『平成の大津波被害と博物館』巡回展」「文化・芸術が集うとき in 紫波町」p.7／インフォメーション p.8

テーマ展 <sup>ひづめ</sup>  
比爪—もう一つの平泉—

3月15日(土)～5月11日(日) 特別展示室



<sup>ひづめのたち</sup>  
比爪館跡出土遺物 (紫波町教育委員会蔵)

奥州藤原氏の第二の拠点、比爪館の出土遺物です。かわらけ、国産陶器、中国産陶磁器、木製品、金属製品、石製品など、平泉と質的に全く遜色のない遺物が、豊富に出土しています。かわらけは赤味が強い色合いで、平泉と異なった作り癖もみられ、独自のかわらけ工房を有していたことを示します。

## ■いわて文化ノート

## 明治期の博覧会と物産会

専門学芸調査員 笠原 雅史（歴史部門）

## 1 はじめに

成立背景が博物館と関連が深いとされる博覧会や物産会は、現在も盛んに催されています。ご当地グルメや菓子などの「食」や、「花」や「ペット」をテーマにしたもの、そして国をまたいで開催される万国博覧会など、そのテーマや形態、規模に至るまで様々です。一般的には世界で最初の博覧会は18世紀末のパリで開催されたとされていますが、日本、そして岩手における博覧会はどのように始まり、変遷していったのでしょうか。明治期の博覧会の記録から探ります。

## 2 博覧会のはじまり

日本で最初の産業博覧会は明治4年（1871）10月10日から11月11日にかけて、京都本願寺大書院で開催されました。この博覧会をまとめたのは、25年の大河ドラマでも登場した新島（山本）八重の兄、山本覚馬です。覚馬は会津藩士として戦争捕虜となっていました。釈放された後はその才覚を買われ間もなく京都府の顧問となっていました。

東京文化財研究所美術部が編集した『明治期府県博覧会出品目録』によると、出品点数は375点。その出品の内訳は「支那」つまり中国関連の品が170点で4割以上を占めます。書や刀、鉱物などは123点でした。産業の振興に関連した工芸品は43点、西洋関連の品は39点と決して多くありませんでした。

内国博覧会を含む殖産興業政策は、内務省が国策としての産業振興の中心を担っていました。特に内務省の7つの部局のうち、「勸業寮」が所管し、一方で産業振興プロジェクトの事業を現地で担ったのが府県庁です。府県知事の監督権も内務省が握り、府県庁は内務省の出張所としての側面を持っていました。

明治政府も殖産興業政策の一環として、海外の万国博覧会への参加や国内での博覧会・共進会を開催しました。特に力を入れたのが、西南戦争中の明治10年（1877）の第1回から明治36年（1903）の第5回まで開催された内国勸業博覧会です。各府県より工業・冶金業・製造物・美術・機械・農業・園芸などの分野に分け、出品を求め、褒賞を行うなどして、国民の殖産興業への関心と意欲を増進させることを目的としていました。

第1回の内国勸業博覧会は、明治10年（1877）8月21日、東京上野で天皇を迎えて開会式が挙行され、挨拶に立った主催者の内務卿大久保利通は8万点をこえる陳列品を「産出の佳、製作の美」と称えました。3か月で入場者は45万人を超え、盛況を博したといえます。

岩手県からも各部門への出品が見られ、第2回内国勸業博覧会では有功二等（県観業課出品の牛馬）1、三等6、褒賞22を獲得しました。三等入賞品には、盛岡の鉄瓶3点と葛巻の牛が含まれています。



上野公園於開設第三回内国勸業博覧会之略図  
(岩手県立博物館蔵)

上の写真は、明治22年（1889）の4月1日から7月31日まで、東京の上野公園を会場に開催された第3回内国勸業博覧会の会場を多色刷版画（錦絵）で描いたものです。第3回にも、岩手県から各部門の出品が見られました。美術品では盛岡の川口寿宜（月村）や、水沢の常八（耕雲）、黒沢尻の小原権六（玉江）

などが記録されています。また、農業では県産馬24頭が出品され、内12頭が褒賞を獲得しました。

## 3 岩手県初の博覧会

岩手県においても第1回勸業物産会が明治11年（1878）5月1日から31日の1ヶ月にわたり、盛岡で開かれました。先行の研究では、物産会の趣旨は以下の点にまとめられています。

第一に、商品を売るための産業指導を行い、生産者の技術を高めること。第二に、商品の市場開拓を行うとともに、出品商品に対する需要を計ること。第三に、商品を不特定多数の需要を目標に、実見を伴う宣伝・広告を行うこと。第四に、需要者の選択眼を養い、生活技術を高めること。

特に、宣伝と広告の有効な手段として博覧会、物産会の役割は大きいものでした。大正期のラジオ、戦後のテレビは未だ登場しておらず、国民が大いに関心を向ける日露戦争以前は、新聞を定期的にとっているのは大学教授か学校長、事業家などで、一般の家ではほとんどない時代でした。雑誌も少年雑誌の刊行が始まるのが明治20年代からであり、多くの雑誌が創刊されるのは明治30年代です。

第1回の会場となったのは、現在の岩手日報社、もりおか歴史文化館（旧県立図書館）などの敷地一体です。明治初期、この一帯には勸業場がありました。

第1回の勸業物産会についての記述を書籍や刊行物に探すと、伝家の宝刀や家宝など、「珍奇珍弄ノ贅物」が多く出品されて係官を驚かせ、「物産会」の趣旨が理解されなかったことが注目されています。（明治初期の博覧会に前時代の見世物小屋の要素が見られるのは、前述の京都博覧会の様子からも分かるように、岩手

に限ったことではありません)

第1回の勲業物産会に対し、明治13年(1880)の第3回勲業物産会(盛岡)では、主旨が理解され、「日用繁用ノ物品」が出品されたと評価されることが多いようです。

第3回物産会出品者は1,052人、出品数165,063品、内機械類25品、観客は49,023人でした。売り上げは7,857品で4,184円16銭、商品授与者273人(1等14人、2等79人、3等180人)と伝えられています。

岩手県初の第1回勲業物産会で目立つものは混乱ぶりだけだったのでしょうか。しばらく当時の新聞『日進新聞』を読みながら様子をたどることにします。

明治11年(1878)5月3日(金)付の『日進新聞』では、開催日の1日は好天氣に恵まれ、午前9時から会場式が盛大に行われた様子が記されています。5月6日の記事には、5日間の来場者数は12,795名を数えたこと、売り上げは591品で334円87銭7厘であったとあります。

月日	入場者数	取引品数
5/1 ~ 5	12,795人	591個
5/6 ~ 10	11,362人	791個
5/11 ~ 15	6,372人	364個
5/16 ~ 20	10,014人	297個
5/21 ~ 25	12,132人	310個
5/26 ~ 31	13,298人	336個
合計	65,973人	2,689個

表 第1回勲業物産会入場者数及び取引品数

上の表の通り、1か月の開会期間で、来場者は合計65,973人を数え、2,689品が取引されたとのこと。当時の盛岡市の人口の正確な記録は残っていませんが、現在の市域である12箇村を含めおおむね4万人と考えると、かなり盛況であったといえそうです。

5月30日の記事においては、「マタ該会之本月三十一日マデノ所ヲ来月ノ十日マテ延サレトノイフ風説モ有リ升ガ決シテソナ事ハ有リマセン 全ク明三十一日限りテ有リ升」とあり、当時の雰囲気伝えてしています。

売買された品数はそれほど多くありませんが、先に述べた「珍品」は一部であり、石炭や琥珀などの鉱物や陶器、漁具や工具、日用の家具も出品されています。のち全国的にも評価を得る小泉仁左衛門、有坂富右衛門製作の鉄瓶についての記述もあり、「其形皆雅ニシテ実ニ愛スベキノ佳作ナリ」と評されています。

以上のように、『日進新聞』で報じられた第1回勲業物産会の概況を見てみると、明治期の早い段階から岩手県においても見るべき物産が多くあり、周知されていたことが分かります。

余談ですが、5月18日付の『日進新聞』には、真偽のほどは定かでは有りませんが、様々な書画に混じり木戸孝允や西郷隆盛の書が出品されているとあります。

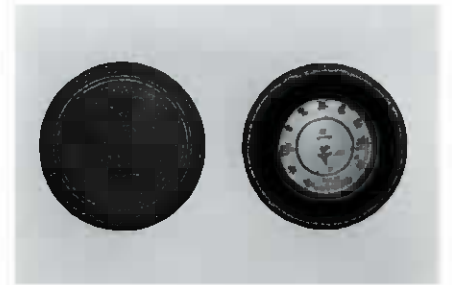
また、24日付の紙面では14日に内務卿であり、殖産興業政策を推進していた中心人物の大久保利通が赤坂の紀尾井坂において殺害された事を伝えています。

#### 4 博覧会のその後

本県のみならず、明治前期において博覧会の一つの流行として各地で行われました。新聞紙上でもたびたび話題となり、博覧会の有効性を説く書評が多く見られます。原敬も明治14年(1881)の郵便報知新聞において「博覧会之効用ヲ論ズ」と題した社説を掲載したことが記録に残っています。明治13年(1880)の宮城県博覧会でも南部鉄瓶が入賞しています。明治16年(1883)には秋田・福島・宮城・岩手四県連合の共進会が開催され、

受賞者94名中優品9品が選ばれ、岩手県は漆罎と麻が選ばれました。

下の写真は明治17年(1884)の岩手県勲業博覧会の三等賞牌で、常設展示室で展示されている資料です。



明治17年勲業博覧会賞牌(岩手県立博物館蔵)

このほか、岩手県内でも郡連合の物産会が毎年のように行われるようになり、これを通じて各地の産業を評価することが定着していきました。次第に「物産館を常備すべき」との声が上がるようになり、岩手県では明治25年(1892)に物産陳列所を常設しています。

明治期の博覧会、物産会は前期にそのピークを見ることが出来ます。列強の仲間入りを果たす日露戦争期までに産業革命が進展し、内国勲業博覧会の開催も明治36年(1903)の第5回で終了しました。

内務省を設立した大久保利通をはじめ、博覧会を勧めた政府の構想にその狙いが明確にあったかは定かではありません。しかし、結果的に市民文化期以後のラジオやテレビと同様に、博覧会や物産会が「日本」のイメージを作る役割を担ったといえます。大正期には「産業」というテーマは後退し、都市を中心に娯楽など文化的テーマが導入されました。第二次大戦後は「復興や平和」、そして近年は「自然や環境」を重視するなど、主要テーマも移って行きました。しかし、いかにして継続的に斬新な出品、展示を行い、活気に満ちた企画を実施するかはその時代にも共通の課題だったようです。



## ■テーマ展

# 比爪ひづめ—もう一つの平泉—

会期：平成26年3月15日(土)～5月11日(日) 会場：特別展示室

奥州藤原氏の中心の権力拠点とは「平泉」です。しかし、奥州藤原氏の支配形態は、「平泉」一極集中の権力構造ではなく、第二の拠点「比爪」の存在を注目すべきです。「比爪」は岩手県紫波郡紫波町南日詰付近を中心とする地域です。「比爪」は「平泉」に匹敵する権力中枢なのか、その勢力範囲はどこまで広がるのか、また「比爪」と「平泉」はどのような関係か、考古学資料を中心にその実像を紹介します。

### 1 奥州藤原氏の勢力範囲と内部構造

奥州藤原氏は、12世紀代、東北地方に勢力を有していた豪族の武士団です。比爪初代の「藤原清綱」は平泉初代の「清衡」の息子で、二代の「基衡」の弟です。「清綱」も姓は「藤原」であり、「比爪」も「奥州藤原氏」と位置付けることが妥当です。奥州藤原氏の勢力範囲は、出羽(秋田・山形県域)全域と福島盆地以北の陸奥(岩手・宮城・青森県域)であって、東北地方全体ではありません。

奥州藤原氏の元来の本拠地は陸奥国奥六郡ですが、平泉は奥六郡よりも南側に位置し、その志向は勢力圏南部、さらには日本の中心の京都へ向いていたと考えられます。一方、比爪は、奥六郡の北半部に位置し、その志向は奥六郡北半部から、糠部、外ヶ浜などの勢力圏北部に向いていたと考えられます。

### 2 平泉—奥州藤原氏第一の拠点—

平泉は、院政期京都の有力者の居館構造を他地域に先んじて取り入れた画期的な構造の都市でした。この居館構造は、以下の三機能からなる複合施設です。

- 1 儀礼・政務の施設の「館」
- 2 居住用施設の「御所」
- 3 宗教施設の「寺院」

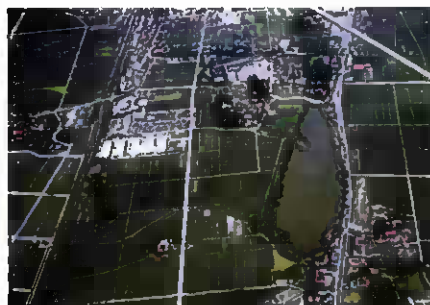
都市平泉の形態は、初代清衡から、三代

秀衡におよぶ、各代の「居館」が重複、連結したものとと言えます。その都市の中で儀礼に使用された「かわらけ」も京都由来の儀器で、莫大な量が出土しています。また国内各地の窯や中国産の陶磁器も多量にもたらされており、同時代の他地域の在地権力の拠点よりも、卓越した物質文化を誇っています。

### 3 比爪—奥州藤原氏第二の拠点—

①中核遺跡・・・比爪の中心施設は「比爪館」です。比爪館の範囲は東西約300m、南北約200mで、面積は5万㎡以上にも及びます。南面は五郎沼に面し、北・東・西辺は大溝で区画されています。これまでに、比爪館は32次にわたる発掘調査がおこなわれ、多量の遺物が出土しています。これまでの調査は小学校敷地である区画内部の北西部に集中しています。この地点では四面庇建物や、井戸跡も多数検出されており、居住用施設の「御所」としての機能が想定されます。

また、比爪館には「大莊嚴寺」という寺院があったとされています。大莊嚴寺は近世初頭に盛岡城下建設に伴い移転し、明治初頭の廃仏毀釈で廃寺になっています。現在、区画内部の南西部には大莊嚴寺ゆかりとされる「薬師神社」と「阿弥陀堂」が所在します。そして、その付近は周囲に比べて標高が低くなっており、「金比羅池」という池があったと伝承されています。さらに、その西側には土



比爪館跡(写真：紫波町教育委員会)

壘状の高まりが確認されていました。今年度、県立博物館考古部門がこの周辺の微細な地形測量をおこなったところ、平泉の無量光院と同規模の浄土庭園が想定できる地形が浮かびあがりました。西側の土壘状の高まりは、無量光院の金堂が建つ西島に酷似した規模・形状です。これらのことから、区画内部の南西部が大莊嚴寺の寺域で、その形態は浄土庭園型式の寺院と推測されます。

区画内部の北東部はほとんど発掘調査がなされていませんが、儀礼・政務の施設の「館」の存在を想定できる広さを有します。このように、「比爪館」は院政期京都の有力者の居館や、平泉の居館と同様の三機能からなる複合施設であることが明らかになってきました。

比爪館の東側には、約1km四方にわたって12世紀の小路口Ⅰ・Ⅱ遺跡が広がっています。発掘調査では大規模な区画溝と直線的な道路遺構が検出されており、直線道路と大規模な溝で区画される「都市的な場」であることが明らかになりました。このように、小路口Ⅰ・Ⅱ遺跡は比爪館に伴う都市であり、両者の合わせた広がりを「比爪中核部」とすることができそうです。

②周縁遺跡・・・比爪中核部からやや離れた地点にも関連遺跡が所在します。これらも、中核部と密接な関係を有する構成要素と位置付けられます。

下川原Ⅰ・Ⅱ遺跡は比爪館から約2km南東方向に位置します。北上川と平沢川との合流部という川湊に適した立地に位置し川湊としての機能が想定されます。比爪中核部とは平沢川と合流する山吹川によって連結されています。また、火葬施設やかわらけ焼成遺構などが検出され、都市の周縁部の埋葬場所や手工業施設が存在する空間でもありました。

**関連講座** (聴講無料 当日受付 講堂 各13:30 ~ 15:00)

- ・ 3月21日(金・祝) 「御館・大名・国人 - 中世成り立期の東日本における兵たち -」 高橋一樹氏 (武蔵大学教授)
- ・ 3月23日(日) 「俺の平泉 ~比爪を斬る~」 八重樫忠郎氏 (平泉町役場・岩手大学客員准教授)
- ・ 4月13日(日) 「比爪 -もう一つの平泉-」 羽柴直人 (当館学芸員)
- ・ 4月27日(日) 「北の経塚」 藤沼邦彦氏 (元弘前大学教授)

伝金鶏山経塚(平泉町)出土経筒、経筒外容器を展示します。(奈良国立博物館蔵 考古資料相互活用促進事業による出品)

栗田川遺跡は比爪館から4.8km離れた紫波町西部に所在します。12世紀の遺物が出土しており、居館遺跡と想定されます。遺物の質から住人はそれなりに高位の者であったと考えられ、紫波郡西部の拠点的な居館と位置付けられます。

吾妻鏡には、寺院「高水寺」の記述があります。高水寺は比爪館の3.5km北の北上川縁の丘陵「城山」がその所在地とされます。発掘調査では12世紀の遺物も出土しており、この想定を裏付けています。比爪中核部と近い距離にあることから、その維持、運営に比爪の奥州藤原氏は深く関わっていたと考えられます。

**③宗教遺跡**・・・比爪中核部から視認できる東西の山列には経塚、寺院などが所在します。これらは、比爪の外縁部とも言える位置で、比爪の構成要素と位置付けられる宗教施設です。

西側では、「新山」に新山寺跡、新山経塚、弥勒地経塚が所在します。新山は比爪館の真西に位置し、重要な宗教的仮託がなされていた山と考えられます。

東側では、北東部に山屋館経塚が所在します。また、赤沢地区の薬師堂には12世紀代の「七仏薬師立像」が現在も地域の信仰を保って伝わっています。薬師堂付近には「蓮華廃寺」が所在したとされ、複数の堂宇から構成される大規模な寺院の存在が想定され、比爪との深い関わりが推測されます。



赤沢薬師堂七仏薬師如未立像 正首寺

**4 北方への広がり - 奥六郡の北へ -**

比爪の勢力圏は、比爪周辺に限定されず岩手郡、さらに奥六郡から北方にも広がっていると推測されます。比爪のかわらけは、平泉のものとは異なった作癖がありますが、この「比爪風かわらけ」が北方に分布していることがその根拠となります。また、平泉と比爪の位置関係からも、岩手郡以北が比爪の管轄とするのは自然な解釈です。比爪の北には、あたかも交通路に沿うように、奥州藤原氏時代の遺跡が要所毎に所在します。その交通路は以下の3つに分けられます。

- ① 東北縦貫自動車道に沿う道筋
- ② 国道4号線に沿う道筋
- ③ 三陸沿岸部の海路

①~③のルートいずれの終点も外ヶ浜(青森湾周辺)ということになります。

③三陸沿岸部のルートは比爪との具体的な関係は不明ですが、①、②の陸上交通路は、比爪との関連なしには成り立たない交通路と断定できます。

奥州藤原氏の時代、日本の北東端は「外ヶ浜」とされ、関連遺跡の分布も外ヶ浜までと理解されてきました。しかし、さらにその北の北海道にも、奥州藤原氏の影響が及んでいる確実な証拠が見つかりました。北海道太平洋岸の厚真町宇隆1遺跡の12世紀の常滑産広口壺です。想定の上では北方交易が取り沙汰される奥州藤原氏ですが、具体的な考古学的な事例は寡少で、非常に注目すべき事例です。

**5 比爪その後 - 鎌倉時代の紫波 -**

文治5年(1189)、平泉の奥州藤原氏は滅亡します。比爪の奥州藤原氏も源頼朝に投降し、当主俊衡は比爪の地に残ることを許されますが、その子弟は連行されます。しかし文治合戦において、比爪系の奥州藤原氏は誰一人、討死、刑死し



ていません。このことは、比爪が平泉と最後の段階で袂を別つたことを示しているのかもしれませんが。

鎌倉時代の紫波郡の様相は不明な点が多い状況です。この時代を埋める資料に、石製の供養碑「板碑」があります。紫波郡内には約50基が存在し、鎌倉時代の紀年銘を有するものも10基以上あります。鎌倉時代、板碑を造立し供養を行い得る権力者が紫波郡内に存在したことを示しています。

**6 比爪と平泉**

従来、比爪は平泉に従属する勢力との見方が一般的でした。しかし、考古学的な事例を積み重ねた結果、比爪の物質文化、都市構造は平泉と何ら遜色がないことが明らかになりました。このことから、比爪は平泉と同等の格式を持つ、対等の関係であったと理解するのが適切です。

しかし、これは比爪と平泉の対立を示すものではありません。両者の協調関係があったからこそ、奥州藤原氏の繁栄があったのです。

(主任専門学芸員 羽柴直人)



■活動レポート 災害復興事業に伴う緊急発掘調査等支援

# 釜石市片岸貝塚・野田村平清水川遺跡

専門学芸員 八木 勝枝 (考古部門)

考古部門は、岩手県教育委員会や市町村教育委員会から依頼を受け、緊急発掘調査や展示の支援を行いました。

今回は、釜石市片岸貝塚および野田村平清水川遺跡の発掘調査等の支援活動についてレポートします。

## ■釜石市片岸貝塚調査支援

片岸貝塚は、釜石市鶏住居地区片岸町に立地する遺跡です。被災市街地復興土地地区画整理事業のため、緊急発掘調査が行われました。釜石市教育委員会主導の下、岩手県立博物館考古部門は長野市教育委員会・岩手県教育委員会と協力して発掘調査を支援しました。

縄文時代では大きな発見がありました。長さ18mを超す長楕円形の大型住居跡が見つかったのです。長楕円形の大型住居跡は縄文時代前期から中期初めの時期に、東北地方から北陸地方に分布します。片岸貝塚で見つかった大型住居跡は、調査範囲内に収まらず、長さは20m近くあると推定されています。岩手県内ではこれまで内陸部で数多く見つかっていましたが、沿岸部での事例は比較的少なく、釜石市では初めての発見です。

縄文時代以降の資料も数多く見つかりました。海浜に近く、山裾の平坦面に立地した片岸貝塚は日当たりも良く、縄文時代以来ずっと山海の恵みを楽しんで暮らしやすい場所だったと考えられます。

発掘調査の成果は、釜石市教育委員会を中心に発掘調査報告書としてまとめられる予定です。今後、片岸地区の歴史として、釜石市内外の多くの人に活用されていくことでしょう。

## ■野田村平清水川遺跡調査・展示支援

野田村野田に所在する平清水川遺跡



釜石市片岸貝塚 大形住居跡の発掘調査

は、バイオマス発電所建設のため野田村教育委員会と岩手県教育委員会によって発掘調査が行われました。岩手県立博物館考古部門は野田村教育委員会の調査・展示を支援しました。

発掘調査によって、奈良～平安時代の竪穴住居跡60棟が見つかりました。住居跡を覆っていた土には、十和田湖起源の十和田a火山灰(915年降下)と、中国・北朝鮮国境に位置する白頭山起源の白頭山-苫小牧火山灰(10世紀前半降下)が含まれていました。

このうち白頭山-苫小牧火山灰は岩手県北部が降下の南限であり、加えて一棟の住居跡から二つの異なる火山灰が上下関係を保った状態で発掘されることは非常に稀な例です。

そこで、竪穴住居跡の土層断面に特殊な接

着剤を塗り、布に土を転写させる「土層はぎ取り」を行いました。住居跡を展示することは簡単ではありませんが、土層を保存することによって後世に遺跡発見時の状況を伝えることが可能です。

土層は、11月3・4日に開催された野田村総合文化祭で展示されました。遠く離れた地から飛んできた火山灰は、多くの来場者を驚かせていました。今後は、岩手県立博物館内で保存処理を行い、長く活用していく予定です。



野田村平清水川遺跡 平安時代住居跡の土層展示の様子

## ■事業報告

## 関西での「平成の大津波被害と博物館」巡回展

平成23年4月から始まった岩手県における文化財レスキュー活動と、救出された文化財の価値を紹介するテーマ展「平成の大津波被害と博物館」は、平成25年1月5日～3月17日に当館で開催され、その主要部分が同年5月15日～6月22日に昭和女子大学光葉博物館でも展示されました。その後、自然史標本のレスキュー活動をテーマの中心に据えて再構成したミニ巡回展が、夏から冬にかけて関西の3つの博物館等で開催されました。

当館の文化財レスキュー活動は、多くの博物館・研究機関等の協力を得て行われていますが、特に陸前高田市立博物館所蔵自然史標本の再生は、北海道から九州まで40館を超える博物館等の協力を

よって成し遂げられました(本誌130号)。これらの標本の多くが陸前高田市出身の鳥羽源藏やその後継者たちによって収集されたものであったことから、関西巡回の出発点となった大阪市立自然史博物館(8月24日～10月14日)では、副題を「ナチ・イラスト鳥羽源藏と後継者たちの残したものと、彼らが残した自然科学の成果を救出標本から示すこと」を主なテーマとしました。またあわせて、同館やNPO法人大阪自然史センターが中心となって行っている被災地の復興支援活動についても紹介されました。

続いて奈良県の橿原市昆虫館(10月22日～11月17日)と兵庫県伊丹市昆虫館(11月21日～12月23日)でも、それぞれ新たな工夫が加えられました。

この関西巡回展では、見る方に親しみを感じていただくため、近畿地方で採集された歴史的に貴重な標本を新たに選び、展示資料に加えました。さらに各開催館の独自の工夫によって、被災資料の新たな面に光が当たったように思われます。



橿原市昆虫館での展示(佐久間大輔氏撮影)

「平成の大津波被害と博物館」展は、東京都江戸東京博物館において新たな内容を加えて開催中です(3月23日まで)。(専門学芸員 鈴木まほろ)

## ■事業報告

平成25年度 岩手県文化振興事業団プレゼンツ  
「文化・芸術が集うとき in 紫波町」

合同展(平成25年度岩手県立博物館移動展・第34回埋蔵文化財展)

岩手県文化振興事業団の各事業所が参加する合同事業、「文化・芸術が集うとき」。今年度は平成25年11月14日(木)から17日(日)までの4日間、紫波町で開催されました。当館は、埋蔵文化財センターとともに紫波町情報交流館の大スタジオを会場に合同展を行い、500名を超える方々にご来場いただきました。

当館では、館内展示物以外に膨大な数の資料を収蔵しています(平成25年11月現在の登録数は14万点超)。今回の合同展では、地質・考古・歴史・民俗・生物の各部門がこれら収蔵品及び県蔵品の中から紫波町に縁のあるものを中心に450点超の資料を選び、ご覧いただきました。例えば、紫波町の山王海ダム付近で見つかった新第三紀後期中新世のサケ

化石(地質部門)、東長岡天王遺跡で出土した縄文時代晩期の土偶(考古部門)、江戸時代に盛岡藩が作成した国絵図で、志和四箇村や飛び地の八戸藩領も描かれている盛岡藩領内図(歴史部門)、昭和初期に町内で製作されていた土人形(民俗部門)、1979年に町内で保護された、本来は太平洋・大西洋・インド洋の熱帯・亜熱帯海域に分布するはずのシラオネツタイチョウ(生物部門)などです。

この他、15日(金)には当館主任専門学芸員の羽柴直人が「比爪の考古学的研究」と題し学芸員講座を行いました。町内には奥州藤原氏の時代(12世紀)の遺跡が数多くあり、当時の一大拠点が発見されたと推定されています。最新の研究成果を交えたこの講座には、39名の方にこ

参加いただきました。

年に一度、博物館・埋蔵文化財センター・県民会館・美術館が盛岡を飛び出して出張事業を行うこの企画、広い県土を有する岩手ではとくに意義のあることと考えています。より多くの県民の皆様へ、より身近で文化・芸術に親しんでいただけるよう、今後も努力してまいります。



(専門学芸員 丸山浩治)





# 岩手県立博物館

IWATE PREFECTURAL MUSEUM

## インフォメーション〈2014.3.1~2014.6.30〉

### お知らせ

●**ゴールデンウィーク臨時閉館** 4月28日(月)  
ゴールデンウィーク期間中の4月28日(月)は臨時閉館します。  
4月22日(火)～5月6日(火・振休)は無休、5月7日(水)は休館です。

### 国際博物館の日

●**国際博物館の日** 5月18日(日) 入館無料  
5月18日(日)「国際博物館の日」は入館料が無料です。  
●**県博バックヤードツアー** 5月18日(日) 参加無料  
「国際博物館の日」の記念事業として、今年も「県博バックヤードツアー」を実施します。ふだんは見られない収蔵庫などを学芸員が特別に案内します。  
5月18日(日) 当日受付 定員各回10名 所要時間約60分  
自然コース ①13:00～ ②14:00～  
歴史コース ③13:15～ ④14:15～  
※整理券は各回10分前から配布します。  
※どちらかのコースを選んでご参加ください。

### 展覧会と関連事業

■**テーマ展 比爪 一もう一つの平泉一**  
平成26年3月15日(土)～5月11日(日) 特別展示室  
奥州藤原氏第2の拠点「比爪」(岩手県紫波町)。比爪は平泉に匹敵する都市か。考古学資料を中心に、その実像を紹介します。  
■**展示解説会** 14:30～15:30 特別展示室 要入館料  
3月15日(土)、5月10日(土)  
■**考古学セミナー講演会**  
3月21日(金・祝) 13:30～15:00 当日受付 講堂 聴講無料  
「御館・大名・国人一中世成り立期の東日本における兵たち」  
講師：高橋一樹氏(武蔵大学教授)  
4月27日(日) 13:30～15:00 当日受付 講堂 聴講無料  
「北の経塚」  
講師：藤沼邦彦氏(元弘前大学教授)  
■**考古学セミナー現地見学会「比爪館を歩く」(紫波町)**  
4月29日(火・祝) 13:30～16:30 現地集合・解散  
※要事前申込。詳細は博物館までお問い合わせください。  
■**県博日曜講座**  
3月23日(日) 13:30～15:00 当日受付 講堂 聴講無料  
「俺の平泉～比爪を斬る～」  
講師：八重樫忠郎氏(平泉町役場、岩手大学客員准教授)  
4月13日(日) 13:30～15:00 当日受付 講堂 聴講無料  
「比爪一もう一つの平泉」  
講師：羽柴直人(当館学芸員)  
■**企画展 八戸立藩三百五十年記念**  
ふるさと岩手 八戸藩の礎となった母と子  
～二代藩主南部直政と生母豊松院～  
平成26年6月28日(土)～8月17日(日) 特別展示室  
※詳細は次号で紹介いたします。

### 古文書入門講座

5月10日(土)～6月1日(日) 毎週土曜・日曜 全8回 10:00～11:30  
『子供早学問』・『平泉往来』などの江戸時代の寺子屋の教科書で、かな文字から古文書の基礎を学びます。  
定員：30名 ※要事前申込み(応募者多数の場合は抽選)  
対象：一般(初めて古文書を学ぶ方)  
募集期間：4月8日(火)から4月22日(火)まで(必着)  
応募方法：往復はがきに、①古文書入門講座受講希望、②住所、③氏名(ふりがなも)、④電話番号を明記の上、当館の古文書入門講座係宛に郵送してください。募集締め切り後、返信用はがきで連絡します。

### 観察会

◆**第67回自然観察会「昆虫観察会」** 網張温泉自然観察の森  
6月29日(日) 9:00～ 現地集合・解散  
ブナ林の昆虫を観察します。  
講師：千葉武勝氏(元岩手県農業試験場研究員)  
※要事前申込。詳細は博物館までお問い合わせください。

### 県博日曜講座

第2・第4日曜日 13:30～15:00 当日受付 聴講無料  
当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。  
\*はテーマ展「比爪一もう一つの平泉」関連講座です。  
3月9日 「エクスカーション「盛岡」～3コースで盛岡を探る～」  
中山 敏(当館館長)  
\* 3月23日 「俺の平泉～比爪を斬る～」 八重樫忠郎氏(平泉町役場)  
\* 4月13日 「比爪一もう一つの平泉」 羽柴直人(当館学芸員)  
\* 4月27日 「北の経塚」 藤沼邦彦氏(元弘前大学教授)  
5月11日 「いわてのシカを知る～その生態と生息状況について～」  
山内貴義氏(岩手県環境保健研究センター)

5月25日 「ケセンカギ」の誕生一漁具からみた気仙地方におけるアワビ漁の変遷」 目時和哉(当館学芸員)  
6月8日 「遺跡の土を洗ってみると…」 丸山浩治(当館学芸員)  
「微細遺物から考える古代」 川向富貴子(当館学芸員)  
6月22日 「カッパのはなし」

### 週末の催し

◆**ミュージアムシアター**  
毎月第1土曜日 13:30～15:10 講堂 当日受付 視聴無料  
童話を中心としたアニメなどを上映します。  
3月1日 **人形特集** 小学生向け  
人形劇「おじいさんと不思議なおくりもの」「おじいさんとてぶくろのお家」/人形アニメ「わらしべ長者」「魔法の指輪」「おこんじょうり」  
4月5日 **アニメシアター** 幼児～小学生向け  
「恐たま乱太郎」ただのドケチじゃないの段・学園長のワラ人形の段/「恐たま乱太郎のがんばるしかないさ」あたたかい心でしんせつにする・きまりを守って協力しよう ほか/「恐竜くんのリサイクル」「Lost Animals よみがえる絶滅動物たち」  
5月3日 **アニメシアター** 幼児～小学生向け  
「だるまちゃんてんぐちゃん」「だるまちゃんとかみなりちゃん」「ムーミン ほくは王様だ」「ムーミン 落ちてきた星の子」  
6月7日 **アニメシアター** 幼児～小学生向け  
「たまごにいちちゃん」「こんには たまごにいちちゃん」「がんばる！たまごにいちちゃん」「ねごさかな」「おどるねごさかな」「そらとぶねごさかな」「ねむるねごさかな」

◆**チャレンジ!はくぶつかん**  
毎月第2・第3土曜、日曜、祝日 小学生向け 随時受付  
チャレンジ!マークをさがして はくぶつかんをたんけん!  
3月8日・9日・15日・16日 テーマ：金  
4月12日・13日・19日・20日 テーマ：馬  
5月10日・11日・17日・18日 テーマ：つなぐ  
6月14日・15日・21日・22日 テーマ：足  
◆**たいけん教室～みんなでためそう～(予約制)**  
毎週日曜日 13:00～14:30 幼児・小学生20名程度 参加無料  
さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみましょう。  
※要事前申込み。開催日の1週間前の日曜日から電話または博物館で9:30～16:30まで(休館日を除く)先着順に受け付けます。  
1度に3名まで予約可能です。詳細はお問い合わせください。

3月	2日	こはくの玉づくり	23日	石から絵の具をつくらう
	9日	化石のレプリカづくり	30日	ガラスの万華鏡
	16日	スライムであそぼう		
4月	6日	スライムであそぼう	20日	このほりーす
	13日	砂絵	27日	まが玉アクセサリ
5月	4日	土器づくり	18日	ふしぎなビー玉おもちゃ
	11日	石のオリジナルはんこ	25日	石から絵の具をつくらう
6月	1日	チャグチャグ馬コづくり	22日	化石のレプリカづくり
	8日	てんでんだいこ	29日	まが玉アクセサリ
	15日	草花のそめもの		

### 定時解説

平日・土曜 13:30～14:30 日曜 10:30～11:30  
解説員が常設展示室をご案内します。そのほかにも随時、解説員がご質問や解説のご希望におこたえています。

### 利用のご案内

■**開館時間** 9:30～16:30(入館は16:00まで)  
■**休館日** 月曜日(月曜が休日の場合は開館、翌平日休館)  
※4月28日は臨時閉館  
資料整理日(9月1日～10日)  
年末年始(12月29日～1月3日)  
■**入館料** 一般300(140)円・学生140(70)円・高校生以下無料  
( )内は20名以上の団体割引料金  
国際博物館の日5月18日(日)は無料  
※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。  
※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は無料です。  
※消費税率改定に伴い、入館料に変更が生じる場合があります。

岩手県立博物館より 第140号 平成26年3月1日発行	編集 岩手県立博物館 〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34 Tel. (019)661-2831 / Fax. (019)665-1214 発行 公益財団法人岩手県文化振興事業団 〒020-0023 盛岡市内丸13-1 Tel. (019)654-2235 / Fax. (019)625-3595
-----------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------